| 市　長 | 副市長 | 教育長 | 教育次長 | 課　長 | 館　長 | 館長補佐 | 係　長 | 記　録 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |

**【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】**
**【会議名：糸魚川市博物館協議会　全体会】**

☑開示
☐一部開示　(理由:条例第　条第　号　該当)
☐不開示
☐時限不開示　(開示:　　年　　月　　日)

# 会　議　録

作成日　令和３年７月 24 日

| 日 | 令和３年７月 10 日 | 時間 | 14:00　～　15:25 | 場所 | フォッサマグナミュージアム　研修室 |
|---|---|---|---|---|---|
| 件名 | 議題１　報告事項１～５<br>議題２　協議事項<br>１　令和３年度博物館協議会の活動計画について<br>２　令和３年度博物館事業計画（業務係担当分）について<br>３　令和３年度博物館事業計画（学芸係担当分）について | | | | |
| 出席者 | 【出席者】９人<br>専門部会　椚座会長　大塚委員　松岡委員　山縣委員<br>運営部会　中村委員　堀田委員　川合委員　横澤委員　銀林委員<br>【欠席者】１人<br>運営部会　野本委員<br>【事務局】４人<br>博物館　竹之内館長　猪口館長補佐　茨木主査　小河原主事 | | | | |
| | 傍聴者定員 | 人 | 傍聴者数 | 1 人 | |

**会議要旨**

１　開会（14：00）
　館長あいさつ
２　会長・副会長の選任
３　議題
（１）報告事項
【事務局】報告事項１～５を資料に基づき説明。
質疑
【委　員】例年、多くの活動を実施しているが、新型コロナウィルス感染症に関連して、学校対応の人数はどのように制限したか。
【事務局】例えば 80 人の学校の場合、ホール説明は 40 人を２つに分る、館内見学すると密になる場合は野外での見学にするなどの対応をした。長野県から来る学校は特に多かった。通常、事前に学校の先生から確認の連絡が来る。学校が見学地としてフォッサマグナミュージアムを選んだことのほか、市、旅行代理店、観光協会等関係者による意見交換会があったことも、学校利用の増加につながった。
【委　員】９月～以降に学校の利用が増えた理由は何か。

【事務局】GoTo キャンペーンの効果がある。個人旅行の入館者が増えた。

【事務局】新型コロナの影響で修学旅行の時期と行き先を変更せざるを得なかった学校の利用が 10 月、11 月に集中した。

【委　員】入館者の推移のグラフに、「北陸新幹線開通」と書かれているが、リニューアルについては書かれていない。どの効果なのか分けて表記しないと、次回のリニューアルを検討する際の参考にならない。グラフに正しく書いておくべき。

【事務局】入館者増減の要因について、分けられる部分については整理する。

【委　員】新潟大学理学部とのサテライト連携について、どのような連携をおこなっているのか。

【事務局】研究の連携については、糸魚川ジオパークから恐竜化石を見つけることなどを目標に、松岡先生と協力して、10 年ほど調査を継続している。紀要（研究報告）については、日本語のものはフォッサマグナミュージアム発行の研究報告、英文のものは新潟大学サイエンスレポートに載せるといった住み分けを行なうことも考えている。標本の管理や、普及事業についても連携していきたい。

【委　員】新潟大学は、フォッサマグナミュージアム開館のころから連携して活動をしている。以前は研究に関する連携が中心だったが、10 年ほど前の世界ジオパーク認定の頃から普及活動の連携を多く行っている。次の段階として、教育に関する連携を増やしていく。これまでにも学芸員資格のための館務実習の受け入れをお願いしてきたが、今年から、学部２・３年生を対象としたインターンシップの受け入れが始まる。

【事務局】学校からフォッサマグナミュージアムへの要望はあるか。

【委　員】小学６年生の学習で地層観察があり、ほかに防災教育などもあるので、学芸員から児童に話をしてもらいたいが、学芸員は忙しいと思い、来館時には教員が説明している。博物館と連携できれば、深く教えられ、子どもたちにとってもインパクトがある学習ができる。また、最近の来海沢の地すべりは西海小学校の近くであり、身近なこととして学ぶことができる。

【事務局】学芸員に依頼することは敷居が高い感じか。

【委　員】高い。学芸員は忙しいのではないか思って遠慮していた。

【事務局】タブレット等を使った授業にも対応できる。

【委　員】授業では ZOOM が使えるので、フォッサマグナミュージアムに来なくても（学校に投稿せず自宅でも）話を聞くことができるので活用していただきたい。

【事務局】フォッサマグナミュージアムのホームページに、ストリートビューのように館内の展示を見ることができる動画があるので活用していただきたい。

【委　員】今年、小河原学芸員に、大学１年生向けにオンラインでの館内案内をしてもらったが、大好評だった。

（２）協議事項

【事務局】令和３年度博物館協議会の活動計画、令和３年度事業計画（業務係担当分・学芸係担当分）について資料に基づき説明。

質疑

【委　員】フォッサマグナパークの保全委員会の実施はいつからか。

【事務局】平成 26 年から委員会を組織して計画を策定している。断層露頭が国指定天然記念物になったが、改修工事が終わってから、１～２年を目途に新たに計画を作ることが必要。断層露頭のほかに、枕状溶岩や、西の古い地層も国指定を目指していく。

【事務局】断層、枕状溶岩や地元の酒蔵をまわる２時間くらいの回遊ルートについて、解説看板が必要と考えている。断層のモニュメントのデザインについて、市内小学生からアイデアの絵を描いてもらい、その中から選んだ。素材として石を使ったものになる。

【委　員】今年、栂海新道の特別展を開催するとのことだが、青海中学校に栂海新道の資料がある。校内は一般の方が見学できないが、どうにか活用できないか。

【事務局】今年が栂海新道開通 50 周年にあたり、7 月 22 日からフォッサマグナミュージアムで特別展を開催する。文化庁の助成事業の補助金が 400 万円ほど使える。新潟大学、上越教育大学、糸魚川ジオパーク協議会、観光協会、市内の山岳会が主催・共催している。

【委　員】中学校のスクールカウンセラーをしているが、栂海新道の資料があることは知らなかった。

【委　員】栂海新道の資料は中学校の資料室にある。６年前の「ふるさとウォーキング」の行事で見た。

【事務局】山の特別展に関する出前講義について、校長会で声掛けしてある。

【委　員】活動全体について、研究員制度を作ってはどうか。若手研究者の実績にもなるし、年配の研究者の肩書きにもなる。また、フォッサマグナミュージアムの応援団にもなる。人の輪をつくることで活動がより広がる。研究員制度については「野尻湖友の会」で作ったことがあり、準備に手間がかかった。自分は現在明治大学の客員研究員であり、予算はつかないが、科研費の申請などで外部資金を獲得することができる。

【事務局】研究員制度について検討していきたい。フォッサマグナミュージアムが科研費の申請ができ、また登録博物館になれるようにしていきたい。

【委　員】研究に関する助成制度はあるのか。

【事務局】糸魚川ジオパーク協議会が研究の助成を行なっている。

【委　員】研究報告の出版はしているのか。

【事務局】学芸員、大学の先生、友の会の会員などが著者になって、７冊ほど発行した。

【委　員】研究報告の発行については、職員が編集して、論文の執筆もして、ということではなかなか発行できない。自分も苦労した。下仁田自然学校では編集は外部に委託している。農家のひとを誘って、こんにゃくや水車についての論文を書いた。

【委　員】ジオパークカレッジとはタイアップしているのか。研究報告は、ジオパークカレッジの受講生が書いた論文が掲載されるものか。

【事務局】ジオパークカレッジについては、学芸員が講師として協力している。研究報告は、ジオパークカレッジの論文集とは別。

【事務局】フォッサマグナミュージアムの研究報告に、ジオパークカレッジの論文のうち、よいものを載せることにすれば、掲載論文が増えるのではないか。

【委　員】活動報告も含めて、情報発信は重要。

【委　員】WEB に公開という形であれば、印刷製本費がなくても、いつでも公表できる。新潟大学の企画展は、展示パネルに二次元コードを付けてあり、関係する論文にたどりつけるようになっている。

【委　員】研究報告を発行する目的には、市民を論文の著者にひっぱり上げること、また、研究が市

民のものになっていくこともある。

【事務局】開館当初、化石が好きな友の会会員が執筆した論文を研究報告に掲載したこともあった。

4　閉　会（15：25）

竹之内館長あいさつ

以上